特集

祝！移転開館5周年

「いきにあーと かえりにこーこ」
岡谷美術考古館

「TWIN COLORS Sept-8-2003」
辰野登恵子

拝啓

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

このたび、市立岡谷美術考古館は、平成25年11月3日、文化の日のリニューアルオープンから、5周年を迎えます。

郷土に根ざした美術考古館として、市内から出土した遺物や郷土の作家の作品を中心に展示し、各種イベントも開催してまいりました。また、個展や子どもたちの作品展など、これまで多くの市民のみなさんにご利用いただいております。

本年は、5周年を記念した企画展など、さまざまな行事を予定しております。美術と考古、双方の魅力がたっぷり詰まった美術考古館に、ぜひ、お気軽に足をお運びください。職員一同お待ちしております。

敬具

経験を活かした体験的絵画教室や作品の収集にも力を入れたい

市立岡谷美術考古館　館長
花岡 克行さん

市民目線の美術考古館を

わたしは館長になる勉強をして、館長になったわけではありません。ただ、高校の美術教師や美術作

「ノートルダム寺院」
髙橋貞一郎

「まどろみ」武井直也

家として、美術考古館を外から見てきましたので、外側の人、つまり、市民が美術考古館に望むことを理解しているつもりです。館長になって2年目を迎えますが、そんな自分の経験を活かした企画や催しができればと考えています。

ワークショップや企画展で美術にふれる

具体的には、昨年から始めた初心者向けのワークショップ「体験的絵画教室」がありますが、募集をするとすぐにいっぱいになり、手ごたえを感じています。また、8月末まで開催する特別企画展では「生誕100周年 早出守雄展 ～早出先生と教え子たち～」と題して、当館の収蔵作品などとともに、早出氏の高校美術教師時代の教え子で、絵画の道に進んだ人たちの作品も展示して、過去から現在へのつながりに着目しています。

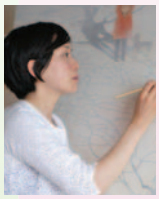
未来につながるコレクションをめざす

収蔵作品についても同様に、岡谷市ゆかりの作家作品を、もらい受けるという受け身の姿勢ではなく、こちらから発信して現代の作家作品も収集し、当館に欲しいと思う未来につながる美術作品を、コレクションできればと考えています。さらに考古関連では「星降る中部高地の縄文世界」として、日本遺産に岡谷市の出土品も認定されましたので、認定および開館5周年記念として、考古特別展を開催します。ご期待ください。

「顔面把手付深鉢形土器」（国重要文化財）

歩み続けてきた5年間　これからもよろしく！

市制施行80周年
姉妹都市アーティスト展
- 伊東美和・内尾和正
  平成28年7月16日～9月11日
- 大竹夏紀
  平成29年2月7日～3月26日
- 東伊豆町合同 雛のつるし飾り
  平成29年2月18日～3月25日



新世代アーティスト展
平成27年8月28日～12月27日

開館1周年
平成26年11月3日

コハク・ヒスイ
ー古代のヒカリモノ
平成25年11月～26年9月

移転開館　平成25年11月3日

平成25年～26年

新しい場所で再スタート！
「文化を核にしたまちづくりの拠点」をめざします。

火おこし体験
平成26年7月13日

今月の逸品　毎月随時変更

おかやメタル Art Zoo
平成26年10月9日～12月8日

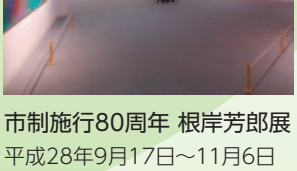
美術考古館テラスに巨大動物あらわる！ いろいろな素材を使って巨大動物彫刻をつくろう！　平成26年11月1日

平成26年～27年

新世代のアーティストや地元ゆかりの作家を深く知る機会を創出。
ワークショップも盛んに！

彫刻クリーニング
平成27年8月2日

彫刻家武井直也の軌跡
平成27年10月17日
～11月30日



市制施行80周年 根岸芳郎展
平成28年9月17日～11月6日

平成27年～28年

市制施行80周年という節目に
さまざまな交流や企画展を
行いました。

辰野登恵子追悼展　平成27年3月6日～5月17日

縄文人の暮らしを想像しながらご覧ください

美術考古館ボランティアガイド
林　賢さん

移転開館してわかりやすい展示に

日本考古学協会の会員として、毎週土曜日の午前中にガイドをしています。旧美術考古館のときからガイドを務めていますが、そのときは簡易な展示でしたので、時代を追って説明するのは困難でした。展示されている土器や石器の大部分については、発掘のときから携わっていますので、掘ったものに対して説明する責任があると感じています。その意味でも、移転開館して、わかりやすい展示になったことを、とてもうれしく思っています。この館の見どころは、やはり国重要文化財の顔面把手付深鉢形土器ですが、黒曜石の流通を示す展示も優れていて、この館の展示がいちばんわかりやすいと思います。

美しい土器をつくった縄文人に思いをはせて

また、縄文土器などの文様や装飾を、ひとつの芸術として見ることができるのも、美術考古館ならではのことです。美術品と呼べる美しい縄文土器を見ると、縄文人は教科書にあるようなヒゲぼうぼうの野蛮人ではなく、高度な文化を持った人たちだったと思います。ぜひ、そんな古代人のくらしを想像しながら、見学してみてください。声をかけていただければ、どなたにでもガイドします。お気軽にどうぞ。

市立 岡谷美術考古館

美術

〈特別企画展〉
- ●生誕100周年 早出守雄展
  −早出先生と教え子たち−
  6月28日(木)～8月26日(日)
- ●県展70年を支えた岡谷の巨匠展
  8月30日(木)
  ～11月4日(日)

〈収蔵展〉
- ●生誕110周年 野村千春展
  11月8日(木)～平成31年1月6日(日)

見逃せない企画がめじろ押し！

開館5周年記念企画

「早出守雄展」は、まだまだ開催中！早出守雄を中心に、岡谷の地で育まれた豊かな芸術のひろがりにふれられます。縄文土器の特別企画展にも注目！ かっこよくて美しい縄文土器を見に行こう。

考古

〈特別企画展〉
- ●第1部
  「華麗なる装飾 火焔と水煙の縄文土器展」
  7月14日(土)～8月15日(水)
- ●第2部「恵みを生み出す器
  縄文中期の顔面把手大集合」
  8月18日(土)～9月17日(月・祝)

◆館長による体験的絵画教室および魅力あるワークショップ(毎月随時)

◆若手アーティスト育成(公募)展示
(平成31年2月中旬～3月中旬)

いこう。こよう。大作戦
通年実施

縄文の夜神楽 縄文遺産写真展
写真家 滋澤雅人
平成29年7月15日～9月10日

平成28年～29年「行ってみよう」「また来よう」と思ってもらえるような工夫や企画を展開しました。

全国美術展入賞作品展
平成29年9月16日
～11月12日

国内を結ぶ諏訪の黒曜石
平成29年9月21日～30年7月13日

館長のワークショップ
「体験的絵画教室」 全7回開催

「日本遺産」に認定されました

縄文文化が広がるわたしたちのまち

5月、文化庁の平成30年「日本遺産」に、県内8市町村(諏訪6市町村、長和町、川上村)と山梨県6市とで申請していた「星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅」が認定されるという、うれしいニュースがありました。

八ヶ岳を中心とするこの地域には、ほかには見られない縄文の黒曜石鉱山があり、最高の矢じりの材料としてここから日本各地に流通したことから、縄文人の交流やムラの繁栄、土器・土偶の芸術性を感じられることをストーリーとしています。土器や土偶、黒曜石原産地遺跡など67件の「構成文化財」のうち7件が岡谷市のものです。

国重要文化財の土器を展示

これら出土品は、美術考古館に収蔵し展示しています。なかでも、海戸(かいど)遺跡から出土した「顔面把手付深鉢形土器」は、国重要文化財に指定されていて、つり上がった切れ長の目や上向きの鼻、小さな丸い口、深くくびれた胴など、表現されている女性の美しさは、5千年の時を経てもわたしたちを魅了します。また、国史跡の梨久保遺跡は黒曜石原産地に最も近く、黒曜石・コハク・ヒスイの分配にかかわったムラとされ、良質な黒曜石を求めて多くの縄文人が集まる東西文化交流の拠点でした。

この日本遺産認定を追い風に、美術考古館としても県内外の市町村と協力し、縄文の魅力をさらに発信していくとともに、岡谷市の観光資源に「縄文文化遺産」も加え、PRを展開していきます。

梨久保遺跡から出土した
コハク・ヒスイなどの装身具

問合せ●岡谷美術考古館 ☎22-5854